授業科目名： 心理学（２）	教員の免許状取得のための 選択必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：平　雅夫 担当形態：単独
実務内容 （実務家教員の場合）			
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		

「学位授与の方針」との関係

ディプロマポリシーのＢとＥに関連し、常識に惑わされない”こころ”の見方に関する専門知を身につけるともに、個人や社会における行動の問題をどのように解決していくかの哲学を学修することが本科目の目標である。

授業の到達目標及びテーマ

（１）社会心理学の社会の広範な領域と心理学の接点を理解できる

（２）社会心理学の科学的な思考法を理解できる

授業の概要

「リアルからバーチャルへ　若者の出会いの場は変化したのか」

「差別や偏見にさらされながら働く外国人介護士たち　立ちはだかる文化の壁」

「多くの自殺者まで　ネットでの誹謗中傷はなぜエスカレートするのか」

「あなたの会社は大丈夫？　大きくずれてる上司と部下のコミュニケーション」

　おそらく、多くの人が、上記のような見出しを目にすると、「なじみ」のある印象を抱くだろう。それは、自分の周辺であれ、雑誌等のメディア上であれ、類似のできごとに出会っていることを意味する。そうした類似のできごとを何らかの指標を持って理解したいと考える人はいないだろうか。おそらく、そうした動機に応えられるものが社会心理学である。

　社会心理学は、そうした動機に応えながら、個々の人間の認知過程や脳科学等と連動する精緻な研究を取り上げる一方、「社会」「政治」「文化」「組織」といった社会科学や、建築やライフラインなどの工学分野にも研究分野を広げており、その領域は広範である。また、そうした広範な領域に対して、「心理学」である以上、人の「こころ」の動きの側面からの理解を求めているのである。

　ただし、社会心理学は、科学である以上、単なる批評や思弁とは異なる。実験・調査・観察といった体系的な手法、理論仮説とその実証的検証という手法など、あくまでも科学的に思考し、科学的な手法を厳密に適用することで信頼性や妥当性が確保されていることも付け加えておきたい。

この科目では、「人」と「環境（社会等）」とのかかわりに問題意識を持つ人も多いと思われ

るが、広範な領域ゆえに、容易な学修とはならないかもしれない。そうした広範囲の学修に中で、心理学の応用的な知識と思考法の習得を目指している。楽しみ（苦しみ）ながらも、意欲的に取り組んでほしい。
なお、さらに学修を深めたい人は、基礎的な心理学を中心に取り上げる「心理学（１）」や、個人の事象を中心に取り上げる「臨床心理学」も併せて受講されたい。

授業計画

第１回　人の心は社会とどうつながりあうのか	テキスト：序章
第２回　人や社会をとらえる心の仕組み	テキスト：第１章
第３回　感じたことの影響過程	テキスト：第２章
第４回　心と行動をつなぐ非意識的・自動的過程	テキスト：第３章
第５回　自己	テキスト：第４章
第６回　他者に対する評価・判断・推論	テキスト：第５章
第７回　態度と態度変化	テキスト：第６章
第８回　対人関係	テキスト：第７章
第９回　集団の中の個人	テキスト：第８章
第１０回 集団間の関係	テキスト：第９章
第１１回 コミュニケーション	テキスト：第10章
第１２回 マスメディアとソーシャルネットワーク	テキスト：第11章・第12章
第１３回 社会参加と世論・行動	テキスト：第13章・第14章・第15章
第１４回 組織と個人	テキスト：第16章・第17章
第１５回 こころと文化	テキスト：第18章・第19章

定期試験

教科書

池田謙一／唐沢穣／工藤恵理子／村本由紀子（編）社会心理学　補訂版　　有斐閣

参考文献

テキストの各章末にある参考文献を参照されたい。

学生に対する評価

レポート評価（５０％）、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。